

# 東京湾奥部に残された貴重な干潟を ラムサール条約に登録を推進しよう！

葛西臨海公園は遠浅の干潟の葛西沖を埋め立てて造成され、1989年に開園。都内屈指の緑と水の豊かな自然溢れる場所になりました。近年は年間300万人以上の家族連れやグループなどが訪れ、行楽や野鳥・植物・昆虫などの自然観察を楽しんでいます。

沖合2キロ範囲を含め南側は東西なぎさ、東側は鳥類園（上の池、下の池含む）、中央は水族館、西側は樹木や下生え、2つの池（トンボ池、芦ヶ池）、小川、草原、湿地などが豊かな自然を形成しています。

春・秋には渡り鳥が羽を休める中継地ともなり、稀少種もしばしば観察されています。絶滅が危惧される貴重な植物や昆虫、クモも見つかっています。

一番素晴らしいのは、林・湿地・草原・池そして海・干潟がセットになってあることです。この環境のおかげで、環境省や東京都レッドリストで絶滅危惧や準絶滅危惧に指定されている野鳥（セイタカシギ・コアジサシなど多数）、昆虫（タイコウチ・コオイムシなど）、植物（ウラギク・キンラン・ギンランなど）、そして東京湾では貴重なアカテガニなどが生息しています。また、こうした希少種ばかりでなく、カエル・バッタ類やムラサキケマンやキランソウ、カントウタンポポ、ツルボやネジバナなどのありふれてはいるが最近身近ではなかなか見られなくなった植物まで、実に多様な生き物たちが棲息する高い自然度を誇る公園となっています。

昆虫や鳥と植物とのつながりを身近に観察できる葛西臨海公園の自然をこれからも守り育ててゆくという事は、ますます重要になってくると思います。

そして、この公園の沖合に三枚洲を含めた広大な干潟が広がっています。ここはラムサール条約に登録できる条件を満たす貴重な野鳥の棲息地となっています。公園周辺は環境を悪化しかねない開発計画がいとまがない昨今です。この自然環境を将来に安心して引継げる方法として、ラムサールへの登録は大変有効な手段と思います。

私たちは、この公園を含む沖合干潟が今後も命溢れる自然豊かな地域にさらに発展して行く様、一人でも多くの方に活動を知って頂き共に参加して輪が広がる様、活動を続けたいと思います。



東渚三枚洲

## 多様な生物が棲息する都市公園 葛西臨海公園 葛西海浜公園 の自然を守ろう！



カンムリカイツブリ



スズガモ



発行 葛西東渚・鳥類園友の会 E-mail : [kasai.bird@gmail.com](mailto:kasai.bird@gmail.com)

～ 1 ～



改 160707

# 葛西臨海公園・開発の歴史

◆かつて葛西地区は豊かな漁村でした◆

## － 葛西臨海公園開発の歴史に触れてみよう －



潮干狩りに興じる子供たち

下で民有地が水没、海は浄化能力を失い汚染し漁業も成り立たなくなりました。

この様な公害、環境汚染に人々は反省し、「自然との調和」に目を向ける様になりました。その頃は東京湾の海岸線はどこも埋め立てられはるか沖合いになっていました。



ノリの障子干し

都内ではただ一つ葛西の海岸のみが残されていました。葛西沖開発計画は、「東京で人と海とがふれ合える」最後の砦”として、葛西の海岸や三枚洲を住みかとする鳥や海の生き物を守り人・水・緑がかなでる新しい街を造りたいという多くの人たちの願いを受けて検討かつ決断されました。しかし水没民有地の測量や地権者調整、漁業権問題、開発と環境保護、河川海の汚染防止等々難題は山積みでした。

この開発は土地区画整理法等の下で行なわれ、当時の関係者はこれらの問題を地道に粘り強く解決して行きました。

こうして自然保護を重視し、「都市と自然の調和」を目指した事業計画の下で開発が進められました。なかでも葛西臨海公園、海浜公園は自然回復、環境保護の象徴的公園として誕生し、都内では稀な自然豊かな公園として多くの来園者に親しまれています。

尚、この開発の経緯は以下の文献より抜粋参考としました。  
(図書館で閲覧できます)

「今よみがえる葛西沖」

東京都建設局／東京都市計画事業／  
葛西沖開発土地区画整理事業誌

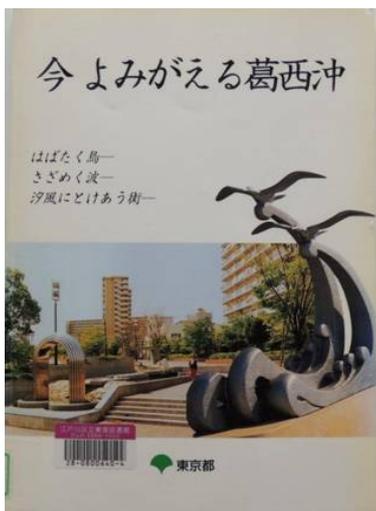
編集・発行 東京都第一区画整理事務所



埋立前  
昭和47年



埋立後  
平成4年



発行 葛西東渚・鳥類園友の会

E-mail : kasai.bird@gmail.com

